

メッセージ 3

からだのために命を供給する

聖書：Ⅰヨハネ 5:14-17、ヨハネ 15:4-5、7、ローマ 12:4-5

Ⅰヨハネ 5:4-13:永遠の命は死に打ち勝つ	
5:14-17: 永遠の命が、わたしたち自身における死、また他の肢体たちにおける死に打ち勝つことができる	
神のみこころに従って求める	5:14:わたしたちが <u>彼のみこころにしたがって求めるなら</u> 、彼は聞いてくださいます。
求めるものがかなえられることを知っている	5:15 わたしたちの <u>求めるものは何でも、彼が聞いてくださることを知っているなら</u> 、わたしたちが彼に求めた願いは、かなえられていることを知るのであります。
祈り求めることと命を与えること	5:16 だれでも自分の兄弟が、死に至らない罪を犯しているのを <u>見たなら</u> 、その人は <u>祈り求める</u> べきです。そうすれば…… <u>命</u> を与えます
永遠の命はわたしたち自身の必要を顧みるだけでなく、わたしたちの周りで共に肢体となっている者の必要をも顧みます	

命を供給する	Ⅰ	命を持って、享受し供給する	A-C	Ⅰヨハネ 5:14-16 わたしたちは命を他の人に供給することができる
			D	命の務めは、わたしたちが経験してきたキリストを命として供給することです
条件	Ⅱ	復活の神を知り、経験する	A	十字架が終結させる働きをし、わたしたちを終わらせる
			B-D	復活の神が働き、わたしたちが、からだに命を供給することができるようにする(アブラハム、パウロ、アロン)
からだのため	Ⅲ	命の中でからだを認識する	A-B	わたしたちの命の経験と霊的な成長の結果です
			C-D	証明:個人主義であることができず、からだの中にいない者を識別することができます
	Ⅳ	実行上からだを認識する必要がある:地方召会の中でキリストのからだを建造する働きをする		
	Ⅴ	キリストのからだの感覚	A-C	いかにキリストのからだの感覚を持つか
			D	キリストのからだの感覚の必要

(朝ごとの食物)第3週 からだのために命を供給する			
日	段落、流れ	主題	要点
1	命を供給する	わたしたちは命を持って、それを享受しているだけでなく、供給することができます	Ⅰヨハネ 5:14-17 は、わたしたちは命を他の人に供給することができることを見せています
			命の務めは、わたしたちが経験してきたキリストを命として供給することです
2	条件	命を供給するには、復活の神を認識し、経験する必要があります	死の経験はわたしたちに復活の神を経験させます
			復活の命は、わたしたちを通して人に分与されます
3	からだのため	わたしたちは命においてからだを認識する必要があります	からだの命
			命の経験と命の成長
4		からだを認識しているという証明	個人主義であることができず、からだの中にいない者を識別することができます
			からだの秩序の中に現されたかしらであるキリストの権威を認識している
5		わたしたちは実行においてからだを認識する必要があります	からだが第一となり、地方召会は第二になります
			キリストのからだを建造する働きをする
6		キリストのからだの感覚を持つ	いかにしてキリストのからだの感覚を持つのか
			キリストのからだの感覚を持つ必要があります

結びの言葉
命を享受し、人に供給する
復活の神を認識し、経験する
キリストのからだの感覚を持つ

I： 命を供給する

命を持って、享受し供給する

I. Iヨハネ第5章14節から17節が示していることによれば、わたしたちは永遠の命を持って、それを享受しているだけでなく、またこの命をからだの他の肢体に供給することができます：

A-C:命をからだの他の肢体に供給することができます

- A. 14節から17節がわたしたちに見せているのは、わたしたちの内側の永遠の命が、わたしたち自身における死、また召会の他の肢体たちにおける死に打ち勝つことができるということです。
- B. 16節は、聖書の中で人に命を供給することを述べている唯一の節です：
1. 命を供給するとは、命を分け与えることです。
 2. わたしたちは命の余剰を持つとき、この余剰から他の人たちに供給することができます——16節。
- C. 14節は、永遠の命の交わりの中での祈りについて語っています：
1. わたしたちは、神のみこころにしたがって求めるべきであって、わたしたちの方法、願望、好みにしたがって求めるべきではありません。
 2. 神のみこころにしたがった祈りが示しているのは、祈る人が神聖な命の交わりの中に住んでおり、また主ご自身の中にも住んでおり、こうして彼が真に主と一であるということです——ヨハネ 15:4-5。
 3. Iヨハネ第5章15節の「知る」ことは、わたしたちが神聖な命を受けた後、主の中に住んでおり、彼の御名における神への祈りの中で、彼と一であるという事実に基づいています——ヨハネ 15:7, 16:23-24。
 4. Iヨハネ第5章16節の「その人は祈り求めるべきです」と「彼は……命を与えます」は、同じ人を指しています。すなわち、自分の兄弟が罪を犯しているのを見て、その兄弟のために祈り求める人を指しています：
 - a. そのように祈り求める人、すなわち、主の中に住んでいて、主と一であり、主と一つ霊の中で（Iコリント 6:17）祈り求めている人は、手段、経路となり、それによって神の命を与える霊は、彼が祈り求めている人に命を与えることができます。
 - b. これが、神聖な命の交わりの中で命を供給するという事柄です。
 5. ここでの極めて重要な点は、もしわたしたちがIヨハネ第5章16節で述べられている事にしたがってある兄弟のために祈ろうとするなら、主と一である必要があるということです——ヨハネ 15:7。

D: 命の務めは、わたしたちが経験してきたキリストを命として供給することです

- D. 命の務めは、わたしたちが経験してきたキリストを命として供給することです——IIコリント 1:3-4：
1. 務めは十字架の働きによって生じます。わたしたちが命としてのキリストの豊富を持って他の人たちに供給するのは、十字架の道によります——4:12。
 2. わたしたちがどれほど多くの命とどれほどキリストの豊富の実際を供給することができるか

は、わたしたちがどれほど啓示を受けてきたか、またどれほどわたしたちに啓示されたことのゆえに苦難を受けてきたかによります——エペソ 3:8。

Ⅱ：条件

復活の神を知り、経験する

Ⅱ. わたしたちは命を供給しようとするなら、神を復活の神として知り、経験し、獲得する必要があります——ローマ 4:17. Ⅱコリント 1:9. ヨハネ 11:25 :

A: 神は十字架を通して働いてわたしたちを終結させ、終わらせませす

A. 神は十字架を通して働いてわたしたちを終結させ、わたしたちを終わらせつつあります。それはわたしたちがもはや自分自身に信頼するのではなく、復活の神に信頼するためです——Ⅱコリント 1:9。

B-D: 復活の神が働き、わたしたちが、からだに命を供給することができるようにする

(復活の神のアブラハム、パウロ、アロンの経験)

B. 復活の神がわたしたちの中で働くとき、彼の命と性質がわたしたちの中へと造り込まれます——4:16。

C. 十字架の殺しは、復活の命の現れという結果になります——10-12 節 :

1. イエスの致死力は天然の人、外なる人、肉を破壊し、その結果、内なる人が発展し、更新されて復活の命を生かし出す機会を与えます——16 節。
2. 主がわたしたちに対して行なっているすべての働きは、わたしたちの外なる、天然の人を破壊することです。それによってわたしたちは内側からキリストの命を生かし出すことができます。これが、新約におけるクリスチャン生活に関する最も深い思想です——ヨハネ 12:24-26. ピリピ 1:21 前半。
3. キリストの死の中にとどまり、彼の死に同形化されることは、クリスチャン生活の深遠な原則です——ローマ 6:4-5. ピリピ 3:10 :
 - a. わたしたちはキリストの死の中にとどまるとき、キリストの復活の力を経験します——10-11 節. ローマ 8:11. Ⅱコリント 1:8-10. 4:14。
 - b. わたしたちがこのようにキリストと共に死ねば死ぬほど、彼の復活の力はますますわたしたちの中で現され、キリストのからだにますます命を供給することができるようになります——ヨハネ 11:25。
4. わたしたちの天然の力と能力は、十字架によって対処される必要があります、それは復活の中で、命を供給することに役立つようになるためです——ピリピ 3:3。

D. 芽を出し、花を咲かせ、実を結ぶ杖は、キリストの復活の命を表徴し、それはわたしたちがからだに命を供給するためです——民 17:8。

Ⅲ-V :からだのため

命の中でからだを認識する必要がある

Ⅲ. わたしたちは命の中でからだを認識する必要があります——Ⅰヨハネ 5:11-12. コロサイ 3:4. 2:19. ローマ 8:2, 6, 10-11. 12:4-5 :

A-B: わたしたちの命の経験と霊的な成長の結果です

A. キリストのからだは、わたしたちの中の命としてのキリストによって形成されます。この命はわたしたちとミングリングして、キリストのからだとなります——Ⅰヨハネ 5:11-12. コロサイ 3:4. 1:18. 2:19 :

1. わたしたちの中の命は、「肢体」の命ではありません。それは「からだ」の命です。
2. わたしたちはみなこの命の中で一です。命の中のこの一は、キリストの奥義的なからだです——エペソ 5:30。

B. 命の中でからだを認識することは、わたしたちの命の経験と霊的な成長の結果です——Ⅰヨハネ 2:12-14 :

1. わたしたちはからだを認識し、からだの実際に触れるために、命の経験と命の成長の中で前進しなければなりません——Ⅰコリント 3:1-2. 14:20。

2. わたしたちは霊的な命の第四段階に到達してはじめて、キリストのからだの奥義を認識することができます——エペソ 4:12-13, 15-16。
3. わたしたちはからだを認識し、からだの中で生きるために、肉、自己、天然の構成を対処する必要があります——ガラテヤ 2:20, 5:24, マタイ 16:24 :
 - a. もしわたしたちがまだ肉にしたがって、自己の中で生き、天然の能力の中で仕えているなら、わたしたちの中のキリストご自身であるからだの命は現されることができず、からだを認識することができません。
 - b. 肉が対処され、自己が捨てられ、天然の構成が砕かれてはじめて、わたしたちはからだの実際に触れることができます——I コリント 12:12, エペソ 4:4-6。

C-D: (証明)個人主義であることができず、からだの中にいない者を識別することができます

- C. からだを認識することは個人主義を対処することです。からだを認識しない者はみな個人主義者です——I コリント 12:14-22。
- D. わたしたちがからだを認識しているという証明は、個人主義であることができず、からだの中にいない者を識別することができ、からだの秩序の中に現されたかしらであるキリストの権威を認識しているということです——18 節。

命の経験の四段階十九項目

第四段階 キリストの 完全な成長 (霊的戦いの段階)	⑰王として支配する	⑱霊的戦い	⑲身の丈の度量に満ちる	命の 円熟		
	⑮からだを認識する	⑯昇天を認識する	ガラテヤ4:19 <u>キリストがあなたがたの内に形づくられる</u>			
	⑭聖霊で満たされる					
第三段階 キリストが 住む (十字架の段階)	⑨肉を 対処する	⑩自己を 対処する	⑪天然の構成 を対処する	⑫聖霊の管理 を受け入れる	⑬霊を 対処する	命の 成長
	ヨハネ15:4 <u>わたしの中に住んでいなさい。そうすれば、わたしもあなたがたの中に住む。</u>					
第二段階 キリストの 中に住む (リバイバルの段階)	⑦油塗りの教えに従う		⑧神のみこころを知る			命の 経験
	④罪を対処する	⑤この世を対処する	⑥良心を対処する			
第一段階 キリストの 中にある (救われた段階)	③献身(体をささげる)					命の 結合
	①再生される		②過去を終結させる			
	Ⅱコリント5:17 <u>ですから、だれでもキリストの中にあるなら、その人は新創造です。</u>					

実行上からだを認識する必要がある:

地方召会の中でキリストのからだを建造する働きをする必要がある

IV. わたしたちは実行上からだを認識する必要がある——I コリント 12:20, 27, 15:58 :

- A. 地方召会は特定の地方におけるキリストのからだの表現です——1:2, 10:32 後半, 12:12-13, 20, 27 :
1. 一つの宇宙召会 (キリストのからだ) は、多くの召会 (キリストのからだの地方的な表現) となります——ローマ 12:4-5, 16:1。
 2. キリストの唯一のからだは、諸地方召会として表現されます——エペソ 4:4, 啓 1:4, 11。

3. あらゆる地方召会はキリストの唯一の、宇宙的なからだの一部分、からだの地方的な表現です——Ⅰコリント 1:2. 12:27。
4. わたしたちがからだを認識するなら、わたしたちの考慮において、からだが第一となり、地方召会は第二になります——ローマ 12:4-5. 16:1, 4, 16。
- B. 主の回復の中にはただ一つの働き、すなわち、からだの働きがあります。今日わたしたちが行なっているのは、わたしたちの個人的な働きではなく、神のエコノミーの働き、すなわち、キリストのからだを建造することです——Ⅰコリント 15:58. 16:10. コロサイ 2:19. エペソ 4:4, 12, 16。

キリストのからだの感覚

V. 聖書の教えとわたしたちの霊的な経験によれば、キリストのからだの感覚と呼ばれるものがあります——Ⅰコリント 12:26-27. Ⅱコリント 11:28-29：

A-C: いかにキリストのからだの感覚を持つか

- A. キリストのからだの感覚は、キリストを享受することから来ます——コロサイ 2:16-19：
1. わたしたちが、食物、飲み物、また息として享受する親愛なる尊い方は、からだのかしらです——Ⅰコリント 10:3-4. ヨハネ 20:22. コロサイ 1:18. 2:19。
 2. わたしたちが享受するものは、実はかしらとしてのキリストからのものです。ですから、わたしたちがキリストを享受するとき、彼を主観的にまた経験的にわたしたちのかしらとします——エペソ 3:8, 17. 4:15。
 3. わたしたちがキリストを享受するとき、かしらである彼はわたしたちにキリストのからだの感覚を持たせます——コロサイ 2:19。
- B. キリストのからだの感覚は、わたしたちの内側にあるキリストの命の感覚です——3:4, 15. ローマ 8:2, 6, 10-11. 12:4-5：
1. キリストのからだは、わたしたち一人一人の中の、またわたしたちとミングリングされている、命としてのキリストによって形成されます——コロサイ 3:4. 2:19。
 2. わたしたちはキリストのからだの感覚について、わたしたちの内側の神聖な命の感覚をもって始める必要があります——ローマ 8:6。
- C. キリストのからだは宇宙的であり、わたしたちの内側の神聖な命は宇宙的であり、からだの感覚もまた宇宙的です——Ⅰコリント 12:26-27. Ⅱコリント 11:28-29：
1. いったん神聖な命とその霊がわたしたちの中へと入るなら、わたしたちは宇宙的な感覚、すなわちからだの感覚を持つはずです——ローマ 8:2, 10-11. 12:4-5, 15。
 2. からだの感覚は宇宙的な事柄ですが、わたしたち自身の感覚や見解のゆえに、この感覚はわたしたちの中で制限を受けています——箴 14:10. Ⅱコリント 6:11-13。
 3. わたしたちは主の砕きを経験すればするほど、また自己から救い出されれば救い出されるほど、ますますからだの感覚が宇宙的であることを見いだします——11:28-29。
 4. わたしたちがからだの感覚を持つなら、他の人たちが苦しみ、あるいは幸いであるとき、わたしたちは彼らと共感し、同じ困難や祝福を感じるでしょう。

D:キリストのからだの感覚の必要

- D. わたしたちはキリストのからだの肢体として、からだの意識を持ち、またからだの感覚を持つ必要があります——ローマ 12:15. Ⅱコリント 11:28-29：
1. わたしたちはからだの生活をするために、からだの意識を持つ必要があります——Ⅰコリント 12:26-27。
 2. わたしたちはキリストのからだの感覚を持ち、からだを顧慮するなら、からだをわたしたちの思考と活動の規範とします——エペソ 4:15-16。